三菱本社の評定

武田會長から爭議報告
會社側飽迄强硬

三菱本社では四日神戸から歸京した武田會長より爭議の經過を聽取し午後一時から丸の内本社で重役會を開き善後策を協議した、會社側は「職工の要求中には應ずべからざるものあり今後の態度は……」

工の要求中團體交渉權の如きは容認することは出來ず、工場委員制は目下會社に於て研究中だが、是亦職工側の考へてゐるやうな内容とは違つてゐる、八時間勞働の實施は困難で、從來通り九時間とし、待遇は賃銀値下もせぬが値上もせぬ」

神戸の拔劍で

小淵斉藤辯護士蹶起

委員十名が實地調査

金權宗の汚名を雪がん

警官の拔劍から死亡者を出すに至つた神戸に於ける勞働爭議の眞相を調査すべく自由法曹團では協議會を開き……

……金權に媚びる辯護士よりは……

にあらず、一部の煽動職工の所爲なりと主張し鈴木會長は同知事の態度に慊らざる分子も可成多いので……

鈴木氏等が三菱、川崎の今回の爭議を機會に此運動を擧げつゝある……

知事に調停を依賴したものならんと觀測されて居れば、鈴木會長等は此際權力階級の長官を利用して……（神戸電話）

有吉知事が調停に立つ

失敗の際は切腹の覺悟

鈴木友愛會長は知事と市長の調停競爭を嗤ふ

有吉兵庫縣知事は三菱造船所の爭議に關し五日午後に至つて自ら出馬し調停の勞を取る旨發表した、同知事は曰く

『今度一部の職工から委任されたので、强て縣會議員からも推擧があり、愈よ決心を堅め職工委員等と會見したので、職工側が不安に感ずるのは、會社が說明はしてあるが要求に對して事實を明かにしないと云ふ點にあるが、私はそれを無條件で一任して貰ひ、工場委員制度の實施、勞働團體加入の承認、解雇手當の制定、其他責任を以て會社に實行させようと思ふのだ、之を職工側も滿足してくれたのであるから、今回の爭議は正々堂々の運動で、其間官憲の壓迫など加へられたが、それな事はない、又私は調停不成功であるならば、切腹の覺悟である』

と頗る自信あるものゝ如くであつたが、一方

鈴木友愛會長始め同會最高幹部は此報を得て聯合會事務所に緊急協議會を開き數時間に渉り凝議したが、鈴木氏は曰く

『知事は一方の職工から依賴されて、それを輕々しくも引受けて奔走したのであるが、職工側最高幹部に對して何等相談もなく又從つて此方から依賴した覺えもない、元來三菱の爭議に就ては知事、市長が競爭の形で調停に立たんとし、市長は勞働團を代表として友愛會長たる私を認め、知事は之を認めないと云ふ風で、今井代議士が奔走したのも櫻井市長の依賴からである、それにもかゝはらず知事は競爭心から突然こんな事を言出したのだ』云々

職工同氏は午後三時より同事務所に幹部を召集して此旨を傳へ、一同は知事官邸に押かけて其出所を糺す事になつた、尙此有吉知事の調停を容るゝ所となり、職工が復職に至らば友愛會は全くのけものにされたる形となるべく、目下の形勢は、知事の調停に從つて、一部職工は六日より復職就業すべき模樣である（神戸電話）

友愛會に賴らぬ

者も多いと知事等の觀測

有吉知事の調停說に對し友愛會側は飽迄聯業團全部の意思……

犧牲職工の葬儀は

六日團葬を以て盛大に執行される

就業職工は約三分の一

[illegible]

は川崎造船本社四千九百五十四、兵庫分工場千百十七、葺合分工場八百計六千八百十一人で前日より三百四十六人を増し、三菱造船所は二千三百二十人、同内燃機は三百二十同電機は四百五十合計四千九百で前日より六百九十三人を増加したが川崎三菱共に全職工は約三分の一の就業者を見たのみである